

過労運転の危険を訴え続けて……

福岡県／緒方節男さん・美弥子さん

雄

大な阿蘇^{あそ}の山並みが一望できるサーキットに、甲高いエンジン音が響きます。練習走行中のバイクが目の前を走り抜けるたびに、オイルの焼けた臭いが漂います。「このコースには息子に付き添ってよく通いました。世界GPで活躍した選手とも一緒に走っていたんです。もう25年以上も前のことになりましたが……」

思い出がたくさん詰まったパドック前で、緒方節男さん（87歳）は懐かしそうに語ります。

レースが大好きだった三男の禎三^{ていぞう}さんが、父と同じ医学の道を進むことを決意したのは、20歳を過ぎてからのことでした。レースも続けながら勉強を重ね、医大に進学し、平成11年5月に31歳で医師国家試験に合格。この年の秋には婚約者との結婚も決まっていました。

けれどそれからわずか2か月後、懸命に努力して掴んだ禎三さんの夢は、一瞬のうちに断たれてしまいました。医師仲間と長野県をツーリング中、中央線を突破してきた車に真



桜並木で有名な熊本県
大津町のHSR九州。
かつて節男さんが
バイクを車に積んで運転し、
禎三さんのピットクルーも
務めた、思い出の場所だ。

正面から衝突され、木曾川に転落したのです。外科医の節男さんは、駆けつけた病院でわが子のレントゲン画像を目にした瞬間、その衝撃がいかに大きなものだったかを悟りました。禎三さんは即死。仲間の3人も骨折などの重傷を負ったのです。

「現場は極めて見通しのよい直線の国道で、発生時間は真昼でした。にもかかわらず、加害者は正面から近づいてくるバイクを次々と5台もなぎ倒したのです。なぜ、衝突するまで気づかなかったのか……」

事故が徹夜ドライブの末に起こったことを節男さんが知ったのは、1年3か月後のことでした。60代の加害者は前日、早朝からの仕事を終えた後、そのままレンタカーで乗鞍岳の日の出を見に行き、その帰路に事故を起こしたのです。十分な睡眠をとっていないことは明らかでした。

あ
の夏から18年の歳月が経とうとしていきます。節男さんは事故の原因が単なる「脇見」とされたことに疑問を持ち、今も再発防止のための問題提起を続けています。



葬儀が終わってから届いた禎三さんの「医師免許証」。本人が死亡すると免許証は返さなければならぬため、コピーを額装している。

「過労運転は法律で、飲酒や薬物使用と同じく、大変危険な行為として位置付けられています。しかし、現実にはそれを判定する明確な基準がありません。睡眠不足は居眠りにつながります。意識喪失状態で何も見えていないのと同じだということをぜひ知っていただきたいのです」

この日初めてサーキットを訪れた母親の美弥子さん（81歳）。風を切るライダーたちの颯爽とした後ろ姿を、優しい眼差しで追いかけています。「優しかった禎三……、あの子がいつも私たちを守ってくれていると感じています。そして私は、バイクに乗る方を見かけるたびに、どうかご無事でとお祈りしています……」